

特集

OBたち母校で講義

—職業別進路講演会—

同窓会会報

群馬県立館林高等学校



尾沢 正田 瀨山 須永 森尻 濱野 大谷 鯉沼 木村
柏木 福地 田口 蓮原 松沢 野本 (敬称略)

進路決定に
活かしたい
— 現役生の声

講師一覧

分野	氏名	経歴	勤務先
金融	野本 直彦	34	元 群馬銀行
福祉	松沢 茂	48	老人ホーム共済会
会計士	蓮原 孝	48	公認会計士
販売	田口 英雄	43	とりせん
教育	福地 晋樹	46	群馬大学
総務	柏木 正明	45	三洋電機
弁護士	森尻 光昭	31	法律事務所
医療	須永 康夫	47	群馬大学小児科医
電気技術者	瀨山 光夫	43	三洋電機
自動車技術者	正田 茂	55	富士重工
バイオ	木村 康夫	47	群馬県農業試験場
化学	大谷 実	40	大日本インキ
コンピューター	尾沢 光浩	55	NITテクノロジーシステム
建設	鯉沼 正男	44	河本工業
マスコミ	濱野 富夫	47	プレジデント社

十一年度より毎年実施されている一・二年生を対象としたOBによる職業別進路講演会が七月五日に開催された。今回は十五名のOBが協力し、自らの職業や勤務先の仕事内容、将来性について、現役生に真摯に語りかけた。参加したOBたちの職業は多種多様にわたり幅広く、生徒はその中から興味のある分野を二つ選び、それぞれの講義を聞いた。OBたちは後輩たちのために自らの体験から得た職業観、人生観を熱く語った。生徒たちはOBたちの話に真剣に聞き入り、自分たちの未来に夢を馳せていた。

この職業別進路講演会のねらいは、「生徒たちに現実の社会で活躍している職業人たちの生の声を聞かせて、何のために学ぶのかをはっきりさせるために、将来どういう職業に就くのか考えさせたい(三谷昇館林高校長)」ということである。生徒たちのこの進路講演会への関心は高く、生徒たちからは「職業のたいへんさ、楽しさを知りたい」、「自分の夢を膨らませるような話を聞きたい」、「職場の雰囲気、職業のおもしろさ、将来性を知りたい」など、期待の大きさをうかがえる内容の意



講義風景

見が多く聞かれた。当日はOBたちから

- ▼医療分野
判断力や決断力、責任感、人間愛、協調性が要求される
- ▼化学分野
幅広い教養や立派な人格を身につける努力が大切である
- ▼弁護士分野
能力は心の価値で決まる。どんな小さい事でも正直に生かれば価値は上がる
など、体験に基づく多くの力強い言葉が熱を込めて語られた。受講した生徒たちからは



現在の館高の印象を聞く
母校を久しぶりに訪れたOB講師に本編集委員はアンケートを試みた。その中の「現在の館高、館高生の印象は？」という問いに対して、館林高校は名実ともに進学校になったという回答が多く寄せられた。館高生については「まじめ、素直、礼儀正しい」という評価がある一方で、「積極性を感じられない」、「元気がない、野性味に欠ける」等々の印象もあるようだ。一般的な社会的傾向が館高生にも見られるということだろう。このアンケート結果をおして私たちが編集委員には、卒業生たちの母校への熱い思いがひしひしと伝わってきた。

- ◆職業のおもしろさがあった
- ◆将来の進路に役立った
- ◆こういう機会をもっと増やして欲しい
- ◆パソコンの重要性を知った
- ◆現在の小売業の実態を知ることができた
- ◆銀行員はたいへんな仕事だと思った
- ◆などという多くの声が寄せられ、この進路講演会はOBたちの協力により大成功に終わったのである。

友情や心の絆を深めよう

同窓会長 岩瀬弥市



あいさつ

同窓生皆様にはお元気で活躍のことと存じます。同窓会会報も皆様のご協力により第五号の発行を迎えることができて心から感謝とお礼を申し上げます。特に今回から会報発行に編集委員として同窓生の有志の方がお骨折り

あいさつ

自分の未来と社会を切開く生徒を育てたい

校長 三谷昇



永島前校長の後任として、四らすも四月から二十数年ぶり二度目の館林高校奉職となり、以来多くの同窓生のみさんから日々激励と支援をいただいたり、改めて伝統校の良さや力強さを実感しております。同窓会会報のみならずの母校へのご支援・ご協力

下さることに心から感謝とご期待を申し上げます。

同窓会活動も母校の発展と共に将来に向かって年々盛んになっておることは皆様のご協力の賜ものと存じます。これからも同窓生の交流の場として心から感謝とお礼を申し上げます。特に今回から会報発行に編集委員として同窓生の有志の方がお骨折り下さることに心から感謝とご期待を申し上げます。

特に最近思うことは、物が豊かになつて心が貧しくなり人間の命が大事にされない風潮が強いのに限りない心配と不安をもつておるのは私ひとりではないと思います。こんな時こそ人間として何をしなければならぬか、何ができるかを考えるべき

に心から感謝申し上げます。また、今春、東京同窓会から、大塚荘治画伯(昭和二十四年卒)の大作「爛漫」を寄贈していただきました。この紙面をお借りして、ご紹介とお礼を申し上げます。

さて、現在日本は、経済の低迷や治安の悪化、青少年犯罪の多発など多くの難問を抱え、将来への展望を持ってないまま大人も子供も「志」を失っているようにみえます。子供に対して寛容過ぎるために、子供たちから耐性を奪い、努力や苦勞といった価値を経験する風潮をつくってしまったのではないのでしょうか。こうした中で、学校教育はかつて多くの課題を背負わねばならない厳しい状況にあります。

だと思えます。地球に住んでいる人間としてひとりよがりなために、みんなはひとりのためにという気持ちになって共に助け合ひ生きるといふことを是非考えて欲しいと思います。

館林高校同窓会も今日までの歴史と伝統を大事にしながらも、館林卒業生としての誇りを持って生きられるよう皆様と共に同窓会を大事に守り育ててまいりたいと存じますので、これからも限りないご支援ご協力をお願い申し上げます。

最後にになりましたが同窓生皆様のご健康とご活躍をご祈念申し上げますと共に、母校館林高校の益々のご発展と母校へのご力添えをお願い申し上げます。会報第五号発行に寄せての言葉といたします。

母校館林高校は、進路状況等からもご理解いただけるように、今、力強く前進・飛躍をしている途上にあります。教育の本質(「不易」)を大切に、①厳しく鍛える②学力を伸ばす③感動を与える、という3点を教育方針として、「鉄は熱いうちに打て」を合言葉に厳しく鍛え、「男の子の意気はここに見る」の精神を醸い立たせ、彼らの未来と社会を切り開く力をつけるべく、教職員一丸となって努力しているところです。

また、保護者からも本校の教育に対して熱い期待と協力が寄せられています。母校の一層の前進と飛躍のために、今後とも、同窓会会報各位のご支援とご協力をお願い申し上げます。

大塚荘治画伯

絵画「爛漫」を学校へ寄贈

中央画壇で活躍中の大塚荘治画伯(24年卒)は絵画「爛漫」を東京同窓会を通して母校に贈呈されました。大塚画伯はこの絵について次のように話して下さいました。

「『爛漫』は第94回太平洋展に発表した作品で、桜をモチーフに5年間位描き続けたシリーズの一枚です。私には、描く毎に強くよぎる二つのイメージがあります。一つは館林正門前の桜並木、1945年4月5日入学式当日、青空の下に咲く満開の花々が迎えてくれたことです。もう一つは城址・三の丸公園の土手に聳える巨木の桜でした。多感な年代に郷里館林で得たものは今でも生き続けています。」

私たちが卒業生の誰もが今尚心に蘇る「正門前の桜並木」をイメージされて描かれた絵画が本校に贈呈されたことは誠に喜ばしく、意義あることです。絵画は学校の玄関正面に展示させていただきます。



大塚画伯は今年(2003年)7月フランス・パリ・イン・ルーブルで開催された「美の革命展」でグランプリ

大賞とトリコロール芸術平和賞のダブル受賞されました。また、ワールド・エスプレント大賞では、最高キング・オブ・エスプレントに選ばれました。(山岸 正記)

平成十五年 同窓会本部役員

- 名譽会長 廣澤 純孝(十年卒)
- 幹事 谷津 義男(二十八年卒)
- 安室 一雄(四十二年卒)
- 松本 耕司(三十八年卒)
- 顧問 渡辺利三郎(三年卒)
- 三谷 昇(母校校長)
- 副会長 岩瀬 弥市(二十五年卒)
- 橋田 基利(十七年卒)
- 小嶋 泰男(二十六年卒)
- 宇治川福司(二十七年卒)
- 山川 博(二十九年卒)
- 岩崎 健典(三十四年卒)
- 河本 榮一(三十六年卒)
- 山崎 浩志(三十八年卒)
- 山崎 稔(三十二年卒)
- 前山 秀樹(三十七年卒)
- 大隅 允雄(三十八年卒)
- 関口 久(三十七年卒)
- 高橋 宣英(母校教諭)
- 塩田 栄(十八年卒)
- 高木貞一郎(二十七年卒)
- 橋本 清(四十一年卒)
- 事務局(本校) 関沢 浩
- 平田 一秀
- 増尾 和俊
- 齋藤 哲男
- 阿部志保里

同窓会活動

●50年間も続く「空っ風会」



「空っ風会」は、館林高校昭和27年卒業生で東京都内やその近郊居住者、東京都内等に勤務先を有する者たちで作られている同期会で、メンバーは70名位です。

「空っ風会」という名前は、館高が空っ風によく吹きさらされ、私達はこの空っ風の中で勉強や運動してきたことを思い出しながら旧交を温めることを意図してつけたものです。尚、メンバーの殆どは旧制館林中学に入り、1年後館林高校併設中学校になったことから、6年間一緒に勉強や運動してきた仲間ですの

で、親しい仲であるとも言えると思います。

学生同窓会やクラス会は、おおむね昭和20年代の卒業生たちは同窓会を毎年行い、勤まらな

などが中心となって作ったように聞いています。発足後は毎年1回必ず開いています。この20年間は、毎年2月の第3金曜日の夜開いています。

この会は50年間という長い期間継続してきていますが、その理由と思われるものは、毎年期日が決まっております。しかも新年会などが終わった後の2月の第3金曜日と決まっていること、殆ど会場場所も決まっていること、約30名位の出席者全員に近況報告など必ずみんなの前で話す機会があること、政治や宗教、利害、得失の意図を持たないこと、何事にもこだわりなく楽しく過ごせる時間にするようにし、会費も程ほどの金額にし、且つ毎年必ず開催することにしてその旨の通知をしてきたことなどにあると思われま

●六年間の思い出をもつ

二十五年卒同窓会

私達は恒例の学年同窓会を今年五月十六日(金)に館林にて開催し

外からの十余名を含めて四十四名の参加がありました。当初は土曜日開催でしたが先細りになってきましたので昨年から平日開催に改めた結果参加者が四割以上増えました。私達は昭和十九年に旧制館中に入学し終戦を経て学制改革によって六年間在学し二十五年新制高校二回卒業生となっておりますが、

(石橋 孝 記)



●谷津農水大臣誕生を

28同期生が祝す

昭和24年中野中野野球部で部代表として県大会出場のため合宿、寝食を共にし、館高で共に学んだ我が友人、谷津義男衆議院議員が平成12年12月5日の内閣改造人事で農林水産大臣に就任しました。

私達中野中で館高同窓生の小林大野両君と相談し、又館林市在住の有志16名が発起人となり、大臣就任祝賀会と28同窓会を開催する事を決め、参加者募集に努めました。

谷津義男議員の大臣就任は同窓生の誇り、母校の誇りと感じてであろう全国各地から76名の同級生が駆けつけ、平成13年2月11日館林文化会館で盛大に挙行されました。谷津大臣は責任の重大さを痛感し、日本の国益を守り、同窓生に恥じないよう誠心誠意全力投球するとその意気込みを披露し驚きました。

出席した同級生の中には頭の前髪を白髪に染めた者や、白髪を染めた人達も多く居て、名前を思い出すのも難しい人も居ましたが、共に杯を酌み交わす毎に現況や昔話に興じて行く姿は誠に微笑ましく、大変有意義な祝賀同窓会であったと発起人を代表して、参加者のみなさまに感謝しております。

(山崎 浩志 記)

●語り楽しい学年同窓会

昭和三十四年母校を巣立って早や四十有余年、還暦という人生の節目を迎え我々は、平成十三年一月三日

最初の学年同窓会を開催しました。当日は恩師を含め五十一名が参加、

四十年振りという人も多く、あちこちで、やあしばらく、と言ったものの四十年の風雪に顔と名前が一致せず、まずお互いの認知作業がくり返されておりました。又頭髪の薄さや腰の出っ張り具合では同席の恩師をも追い越してしまっている輩もあり、白髪の不摂生さを恩師の前で詫言っている姿は真に四〇年前の光景でありました。

そして翌年の第二回は、昼に有志によるゴルフ、夜同窓会と二本立てで行い楽しみの幅を広げました。過ぎし日の思い出話から、健康、老後、子供、趣味の事に至るまで語り合いつける事なく続き、幹事が不本意ながらの閉会を告げる有様でした。心に思い出のページを加え再会を約束し会場を後にしました。

(山田 申 記)



支部活動

館高同窓会の活動は事務局を学校に置く本部同窓会のほかに、地域活動として東京同窓会、板倉支部、館泉会（大泉支部）、千代田支部、太田新田支部、明和支部などが、地域内の先輩後輩のいろいろな交流活動を行っている。毎年行事を持っているので連絡を取り合って参加の輪を広げたいものである。ここではいくつかを紹介したい。

他校O日会との交流も盛んな館高東京同窓会

会長 鈴木 敏男

恒例の親校会が4月1日行われ、会員50数名に加え、県下前橋・高崎両校の東京同窓会及び渋川女子校の各会長、役員の方々多数も出席された。満開の桜の下、談笑に加えてカラオケと有志のダンスも披露された。席上東京同窓会を通して本校に寄贈される「燻漫」と題する大塚荘治画伯の櫻の傑作画も折よく展示説明も出来、会員は申すに及ばず来賓の方々にも鑑賞頂いた。東京では群馬県下の隣接高校同窓会同士の交流呼び掛けや、その他上毛クラブ、群馬県人連合会からの行事への参加要請もあり、時折順番に訪問参加もしている。

8月27日には隅田川での屋形船による納涼会も開催される予定で、昨年以上の参加申し込みが既に見込まれている。本校関係同窓生もご参加頂ければ大歓迎です。ゴルフ会も来る11月12日千葉カントリークラブで開催予定です。



写真は親校会時の前年、高崎両校の各会長と私たち

発足間もない明和支部

支部長 吉永五三次

当、明和支部も発足して3年目を迎え、ようやく軌道に乗りつつあります。去る平成14年12月14日には、第2回総会を50名前後の参加を得、盛大に開催する事が出来ました。来賓として同窓会長、学校長、衆議院議員谷津義男、地元県議矢口昇両先生、近隣支部長等のご出席をいただき、年令を越えた同窓という共通の理解で、心ゆく迄懇談する事が出来たと自負している次第です。今後の課題として参加会員の輪を広げること、気



会報や名簿も発行

ゴルフ大会も活況な館泉会
会長 河内初光

みんな元気に・仲良く・楽しくをモットーに活動しています。主な活動は、新年同窓会と会報発行とゴルフ大会です。今後の予定は、合同役員会、会報第五号発行、本

年に集まれる会にすることであり、よりよいお考えがありましたらお聞かせ下さい。なお総会案内状が届きましたら、周囲の会員をさそいあつて是非ご参加下さい。尚当町では去る7月27日に議員選挙が実施され、激しい選挙戦をたたかい抜いた結果、同窓会員より4名の当選者を出す事が出来、地域社会の発展に必ずや貢献するものと期待して居ります。今年度予定している活動内容を記しておきます。12月上旬 支部総会
2月上旬 回婚将棋大会
連絡先 0276-842925

部同窓会総会への出席、ゴルフ大会（以上、年内）平成十六年一月十六日には、新年同窓会、会報及び会員名簿発行を予定。現在会員は八十一名ですが早く百名にしたいと思っております。
本年五月六日、当会名譽顧問の真下正一先生（元大泉町長、元県教育委員長、大泉町名誉町民）がご逝去されました。故真下先生には、発足当初より今日まで筆舌に尽くせぬお世話になりました。心から感謝し、ご冥福を祈ります。

同窓会ゴルフコンペに思う
山川 博
三回目を迎えた同窓会ゴルフコンペは五月十四日板倉ゴルフ場に九十名の参加者を入れて盛大に行われた。ハイスコアをめざして闘志を燃やしながらも先輩後輩が和気あいあいのなか交流を深めた。思い起こすに、このコンペは東京同窓会が故郷に近い板倉ゴルフ場で毎年開催していたものを、東京同窓会の鈴木会長より岩瀬同窓会長に対し、本部同窓会の事業として取り上げるよう要請があり、それをうけて役員会で不肖山川と山崎副会長に指名があり準備に入った。幸い支部組織のある地区では支部より役員を、無い地区では有志を選任し準備をし、平成十三年五月第二水曜日、本部主催の第一回コンペが百十一名の参加者を入れて開催された。第二回は八十四名、第三回の今回は九十名参加と活況を呈している。ゴルフを通して各界で活躍中の同窓生と一日を楽しくするのは有意義なことではないだろうかと思う。

毎年八月に開催してきたゴルフ&総会を、今年からは暑い日差しを避けて九月に行うことになりました。奮ってご参加下さい。
日時 九月二十六日（金）
昼 12時
場所 ゴルフ、グラウンドゴルフ
ゴルフは板倉ゴルフ場
グラウンドゴルフは東部運動公園
夜 総会（新田家）

十月十八日に参加を

板倉支部
支部長 荻野次雄

四十代から八十代の方々まで広く集まる板倉支部の総会及び懇親会を十月十八日（土）に原田屋にて行います。思い出をそして今を語り合いましょう。奮ってご参加下さい。

連絡先 事務局長
小野田裕司部（82-1323）

当初全員がセルフプレーであったが、キャディーさんの人数に合わせ、年輪順に組み合わせてスタートしてもらった。しかしこれらも今年限りで、次回は乗用カートでのプレーとなる。組み合わせについては、なるべく卒業年次の違う人と組んでもらい同窓生として幅広い交流が生まれることを望んでいるがお考えがあったら

先輩登場



**館高東京同窓会
発足当時の思い出**
十七年卒 渡辺 益男氏

昭和56年館林高校創立60周年記念事業が同年12月式典挙行に向けて各方面の準備が進められました。

当時、本校は野木村浩校長、同窓会長は、広沢純孝氏で、学校内外で在京同窓会御支援の機運が高まり館高東京同窓会創立を迎える事が出来ました。

初代同窓会長には、創立

に奮闘された中心人物の昭和9年卒近藤勝三郎税務会計事務所所長がなられ、第2代には昭和14年卒橋爪平八郎氏が継がれ、続いて、昭和17年卒渡辺益男氏が継ぎ、現在は昭和23年卒鈴木敏男氏（七陽商事）が会長で、会長を中心にゴルフ、花見、納涼会と諸行事を計画し、同窓生の親睦を深めて居ります。

東京在住者は卒業生中特に多く、この会が在京者の大切な核となって居ります。離れて暮らす者にと、特別の機会がないと郷里は、日々とうとくなるのが気がかりになります。旧交を温めたり、思わぬ旧友との再会があるなど、この会が盛んでなければと思うにつけても、今日までの同窓生や諸先輩の御力を有難いと感ずるこの頃です。

渡辺益男氏は昭和17年卒、東京で簿記講師事務所を開設し、現在は同窓会の代表役員として、館高の同窓会活動に大膽な思いで尽力されています。



高校時代の思い出
三十四年卒 早乙女 猛一氏

高校入学して間もなくの頃、夏目漱石の「こころ」を読んだのが切っ掛けで文学に興味を持ち、その後時間があると無作為に小説を読み漁りました。2年生の時には将来文学部に行こうと思っていたのですが、ある時担任の福田先生（第12代校長先生）から「文学者では将来喰ってゆけない選択する道は狭い」と言わ

れたことがありました。大分考え文芸部を諦めたのですが将来どうしたら良いかわからず、唯単に当時就職先が引く手数の理工系に進もうと思いました。そんな曖昧な気持ちだったので現役の時挑戦した大学の理学部と工学部は見事不合格、浪人生活を強いられました。予備校に行かず自宅で浪人生活を送っていた時、偶々テレビで無医村の状態で報道され刺激を受け、その時医学部へ進むと決心しました。そして医師となることができ、現在に至っています。

高校時代は特に活動もせず受験勉強で灰色の青春のように感じることもありました。今振り返ってみると将来の自分を求めて試行錯誤しながら、感性豊かで柔軟な思考ができた時期であったと、懐かしく思います。

早乙女氏は昭和34年卒、現在は東京都立大学理学部外務科に勤務されています。

●来年のコンペにご参加を●
日時 十六年五月十二日(水)
会場 板倉ゴルフ場
どうぞ右記地区役員までお申込み下さい。

●今年のコンペ成績
爽やかな春風の吹く五月十四日、板倉ゴルフ場に九十名の同窓生が集いシンペリア、オール六インチのローカルルールで競技は行われた。成績は次の通り。

優勝 赤坂 宏(館林)
準優勝 中村 貞夫(邑楽)
三位 小林 新内(板倉)
四位 河内 初光(大泉)
五位 橋本 清(邑楽)
ベストスコア 七十四
河内 初光(大泉)

恩師登場



可能性豊かな生徒たちだった
福田郁司先生

長い間館高で指導にあたられた福田先生を編集委員が訪れたのは残念らしい時、以前と変わらぬ元気な様子ですがお喋りになりましたか「八十六歳です」からインタビューは始まった。担任した頃は「終戦間もない二十年九月、校庭南の松林には爆弾が落ちて大きな穴があき戦争の傷痕が生々し

い。その校庭の朝礼台に立つて野木村浩先生と二人が紹介された。生徒はみな素直な性格の良い子たちだった」とスタート時を懐かしむ。「先生たちは個性的な人が多くいたがあの時代だから居られたのでしょうか」と。「館高生は伸びる素質のある者が多いが、小さい世界で満足してしまいがちで進取の気性をもった方が良いと思っていた」などと当時の教育にかける意気込みを熱く語り下された。

現在、六郷、明和、邑楽の公民館で「源氏物語講読」の講師として活躍中とのこと。元気の源は三日で「升あける清酒のお陰かな」と笑って答えて下さった。

福田先生は昭和二十年九月から三十八年一月までの十八年間館高教師として勤務をなさる。四十七年四月から五十年十月まで校長としてご活躍された。



商業科閉科を寂しく思う
須藤正勝先生

十年間お世話になった館林高校での生活を顧みて、卒業生や諸先生方との出会いがつい昨日のことのように思え、懐かしさでいっぱい。担当した商業科では、当時は「簿記やそろばん」が主流でしたが、コンピュータが商業教育の中心となる移行期にさしかかり教育センターでの実習に生徒は興

味を抱き、カード穿孔の作業に夢中で取り組んだことを憶えております。普通科との併設であったのでコンピュータ本体の導入までは困難であったが、カード穿孔機2台を購入し、プログラミング学習を一步進めることはでき、放課後も穿孔作業をする生徒も見られました。また、体験学習の走りとして、商工会議所と協力しての通行量調査や日銀本店、東京証券取引所見学を実施したことは生徒との思い出の行事となっています。商業科は閉科となり、いまでも寂しさを感じておりますが、卒業生が社会の各分野で活躍していることを頼もしく思っております。

須藤先生は昭和46年から10年間商業科の先生として、館林高校の閉科による本校商業科の閉科という激動の時代に活躍された。現在は専業主婦。

ら聞かせていただきたい。
来年は五月十二日を予定、事務局または地区役員さんに申し込んでいただきたい。最後にお世話頂いた地区役員の皆様や同窓会事務局の先生方には紙面をお借りしてお礼申し上げます。

地区役員

東京	中村茂八郎
板倉	山岸 正
館林	小林 勝吉
大泉	大塚 幸雄
太田新田	大隅 允雄
大泉	河内 初光
邑楽	小林 啓八
明和	山岸 勝美
二九福	松本 光夫
本部	山崎 浩志
本部	千代田 博
本部	山崎 博



●爆走！激歩！12時間 50キロ強歩大会

去る四月二十六日、第24回50キロ強歩大会が炎天下（気温27度）にもかかわらず盛大に行われた。しかも完歩率は93・8%と高い数字を保った。午前六時三十分、校長先生のピストルの合図で総勢六二九名の参加者が、渡良瀬川河川敷を東北道下から朝日に向かって出発した。前日の雨でぬかるむ足下、曇り空の下でのスタートだった。そして、昼頃からは快晴となり強い日差しと戦いながらの一日だった。しかし、館高生は男の意地を見せ、板倉町・藤岡町・北川辺町・明和町・千代田町・館林市の六市町村を巡って50キロを完歩した。

館高Now

●文武両道を目指す
三年目を迎える全員朝課外

後輩たちが毎朝授業を開始する時間は何時だと思いだろうか。なんと七時三十分には、全校生徒が机に向かって勉強を始めているのである。それも既に三年目を迎える。この方式ならば、放課後の時間を部活動に活用できるのである。進学実績は、下段の進路状況を見ていただければわかるとおり、ほぼ順調に上がっている。この躍進に朝課外が一役買っていることは言うまでもないだろう。

また、四十五分の七時間授業、1年間を前期、後期の二学期制にする形態も2年目を迎える。これも文武両道を実現するための試みである。部活動の活躍は次頁をご覧ください。

●群馬県数学コンテストで 県No.1に！

昨年七月末、太田で群馬県数学コンテストが開催され、本校からも多数が参加し、難問に挑戦した。その中で三年の角田雅弘君が最優秀賞に選ばれた。つまり、県No.1の座に輝いたということである。過去に例がないほどのすばらしい快挙と言える。角田君に感想を尋ねたところ、「受賞を聞いて正直びっくりした。何かの間違いかと思っただけ。前年の出場時に比べこの年の問題はほとんど解け、良い感触だった。後輩たちには、

進路状況

授業を大事にし、多くの問題に慣れて自信を持ってもらいたい。」と語っていた。ちなみに、角田君はこの春、現役で東大(理一)に合格、進学した。この他に、渡辺学君、根岸邦尚君(ともに三年)が優秀賞、島田拓也君(二年)がアイデア賞を受賞した。

●定時制 健闘中！

男子1500メートルで、陸上部2年坂上亮太君が定時制の群馬県大会で2位となり、全国大会に出場した。また同3年尾島郁江さんが走り幅跳び、荒井由香里さんが砲丸投げに出場し、荒井さんは全国8位となり入賞を果たした。卓球部では4年の金子晋之君が全国大会4回戦まで勝ち進み、バドミントンでも4年の田中亮太君が全国大会で健闘した。授業終了後の部活動は体力的にも厳しく、以上の5名はほぼ毎日練習に励み、仲間をリードし、努力を重ねていた。定時制は現在、4学年合わせて57名(男40・女17)の在籍である。中学校からすぐに入学してくる生徒は約半数であり、15才から65才の間の多様な生徒が在籍している。高校生活を真剣に充実したものにしようと努力し毎日地道で着実な学習をしている。本校定時制は開かれた学校をめざし、総合的な人間形成を目標にし、日常の生徒の活動を重視して確かな信頼関係を築こうとしている。

(定時制教頭)



- 館高の進路実績は躍進を続けている。
- ① 今年度は東京大学の現役合格者を出すことができた。その他の国立大学の現役合格者も五〇人を越えた。
 - ② 現役大学進学達成率は八五%で全国的に見ても高い。
 - ③ 難関私立大への現役合格者が増えた。いわゆるゆ東京六大学のすべてに合格者を出すことができ、しかもそのすべてにおいて前年度の合格者数を上回った。
 - ④ 大学の館高に対する評価が上がり、早大、法政大、明治大、中央大、青学大等を始めとする全国六二大学からの指定校推薦を受けるようになった。
- こうした先輩の後ろ姿を見て在校生もよく努力しているので、館高の飛躍は今後もさらに続きそう

主な国立大学の現役合格者数と合計 (過去3年間)

平成13年	平成14年	平成15年
筑波大学 1	東北大学 3	北海道大学 2
横浜国立大学 1	山形大学 2	筑波大学 1
東京学芸大学 1	東京学芸大学 1	東京大学 1
群馬大学 14	群馬大学 25	横浜国立大学 1
埼玉大学 4	埼玉大学 2	群馬大学 11
宇都宮大学 3	宇都宮大学 1	埼玉大学 3
茨城大学 5	茨城大学 8	宇都宮大学 2
新潟大学 1	新潟大学 2	茨城大学 4
高崎経済大学 7	高崎経済大学 4	新潟大学 4
など合計57	など合計65	など合計52

※ 大学別合格者から後援主は除く

東京六大学の現役合格者数 (平14→平15)

東京大学*	0→ 1
慶応義塾大学*	0→ 3
早稲田大学*	1→ 3
立教大学*	0→ 2
明治大学*	6→ 8
法政大学*	7→ 14
上智大学	0→ 1
中央大学	6→ 10
東京理科大学	6→ 7
※ 私大合計は396	

●印はいわゆる「東京六大学」

館高Now

部活動状況

今年度の運動部加入率は、三年生四十八・五％、二年生六十四・九％、一年生七十九・六％、全体で六十三・七％という状況である。「文武両道」という目標を掲げている本校としても、運動部の活性化も学業と同様に重要なポイントである。今年度の活動実績は、県総体で、総合成績十七位と昨年度十一位を下回った。関東大会への出場は、ソフトテニス部、山岳部、レスリング部、ボート部、水泳部の五部であった。インターハイへの出場権を得た部は、ボ

ート部、レスリング部である。文化部では囲碁・将棋、新聞、井論の各部が全国の舞台行きのキツプを手にした。



秋に行われる関東大会に出場する。また県の国体予選少年の部では3年生の池田が総合一位となり、本県体に向け頑張っている。また恒例の夏合宿は、後立山連峰縦走を予定しており、部員一同トレーニングに励んでいます。

【水泳部】
今シーズンは、6月28日、29日に行われた関東大会の県予選で総合8位に入賞。また、400mリレーが5位に入賞し、埼玉県で行われる関東大会に出場することが決定しました。水泳はこれからが本番、県総体・新人戦と実力を発揮しがんばっていきたいと思います。応援よろしくお願いします。

【新聞部】
平成七年に復刊した「館高新聞」は、現在190号まで発行することができました。昨年は年間33回発行（速報版31回、タブロイド版2回）し、それが認められ、全国高校総合文化祭に県を代表して出場しました。これからも学校、地域に密着した取材を続けます。

【囲碁・将棋部】
囲碁・将棋ともに例年になく活躍している。囲碁で二年の中田君が春の大会で優勝し、東京・福井の全国大会に出場する権利を得た。活躍が期待される。将棋では、一年生ながら川島君が県のベスト8に勝ち残り、今後が期待される。

【レスリング部】
現在のレスリング部は、三年生一名、二年生一名、一年生四名と部員は少なく、厳しい状況である。しかし、部員六名が日々精進し、全国での上位入賞を目標に頑張っている。中でも、三年生の松本隆太郎は、関東三冠となり、全国での活躍が期待される。

【ソフトテニス部】
五月に行われた県高校総体にて柴田・小林組が関東大会出場となりました。また、六月のインターハイ予選では団体選ベスト8に入っています。これから部のさらなる発展を目指しますので宜しくお願いします。

【ボート部】
今シーズンは関東大会3位の今泉、6位の河西・杉山組を中心に小柄ではありますが、まずまずのスタートを切ることができました。夏には関

【バレエボール部】
平成十四年九月二十一日(土)、館林三の丸芸術ホールにて本校主催の第五十一回全国高等学校決勝井論大会が開催されました。北は北海道から南は岡山まで全国二十三名の井士が集い、活気のある大会となり、成功のうちに終了できました。今年は、九月六日(土)に同じ芸術ホールで行われます。

【バレーボール部】
二回戦 館林1-2樹徳
【バドミントン部】
団体 ベスト8
三回戦 館林2-0前橋南
準々決勝 館林0-2桐生商
個人ダブルス 5位
個人シングルス 5位
【バスケット部】
一回戦 館林85-61前橋南
二回戦 館林50-52沼田
【空手道部】
団体 形 予選敗退
個人 形 予選敗退
組手二回戦敗退
【剣道部】
一回戦 館林2-3前橋南
【卓球部】
団体 五位
準々決勝 館林2-3桐生
個人シングルス ベスト8
【テニス部】
一回戦 館林1-2高経大附
【サッカー】
三回戦 館林1-1伊勢崎商
四回戦 館林0-1前橋育英
【ソフトボール部】
一回戦 館林5-15太田東
【軟式野球部】
一回戦 館林1-4農大二
【陸上】
三千m障害 12位
【硬式野球部】
夏期大会
二回戦 館林13-2新田院
三回戦 館林1-11桐生第一

【山岳部】
県総体では6位入賞し、今年も

【囲碁・将棋部】
囲碁・将棋ともに例年になく活躍している。囲碁で二年の中田君が春の大会で優勝し、東京・福井の全国大会に出場する権利を得た。活躍が期待される。将棋では、一年生ながら川島君が県のベスト8に勝ち残り、今後が期待される。



【バレエボール部】
平成十四年九月二十一日(土)、館林三の丸芸術ホールにて本校主催の第五十一回全国高等学校決勝井論大会が開催されました。北は北海道から南は岡山まで全国二十三名の井士が集い、活気のある大会となり、成功のうちに終了できました。今年は、九月六日(土)に同じ芸術ホールで行われます。

高校総体などの結果報告

今年の館高同窓会(総親睦会)は11月8日(土)

～誘い合ってお出かけください～

300名以上参加する大同窓会になって今年で5回目になります。同級生同士が旧交を温めるもよし、先輩後輩が励まし合うもよし、元気をもらって頑張ろうもよし、誘い合ってお出かけください。

好評だった「同級生は同一席で」「総会の超スリム化」「同窓生はみんな平等」の精神などは継承して開催します。



代表幹事 昭和45年卒業生たち
(山中 勉、富 博明、柏木正明)

日時：平成15年11月8日(土) 午後5時

会場：グローバルアイ羽衣 (TEL.0276-74-0110)

◎参加券は総会幹事さん(下記)からお求めください。
(参加券は5,000円、事務局にもあります。)

●4時30分から吹奏楽部の生徒による校歌等の演奏があります。早めにお出かけ下さい。

平成15年 総会幹事

44年度 荒井 英一	43年度 神谷 俊夫	42年度 渡藤 和昭	41年度 神田 静一	40年度 荒井 貞常	39年度 鈴木 正祥	38年度 白井 信長	37年度 鎌田 真一郎	36年度 鎌田 尚司	35年度 大塚 幸雄	34年度 山田 申	33年度 梅田 十四雄	32年度 岡野 上	31年度 浦野 貞昭	30年度 野口 定男	29年度 新井 耕一	28年度 青木 定雄	27年度 春日 信和	26年度 石塚 勉之	25年度 石橋 孝
藤倉 和男	新井 雅温	藤岡 正	森田 則夫	大槻 薫	小宮 桂雄	高橋 徹	増田 秀雄	鎌田 洋行	小林 完夫	塩田 剛	柴崎 孝夫	石井 良雄	川生 宏	坂村 孝	萩野 次雄	渡辺 敏樹	岩崎 昇	大野 泰邦	小林 新内
鎌田 公明	川島 勇一	岩田 徳憲	伊藤 良三	金井田好勇	金井田好勇	午久保三郎	和田 千明	宮内 敦夫	島田 信夫	島田 信夫	森田 敏守	新井 進	栗原 保明	増山 芳弘	小林 一吉	金井政太郎	小倉 礼一	多田 一雄	多田 一雄

編集後記

このたびサポーターによる同窓会編集委員会が発足し、本号の発行より手掛けることになった。編集委員会としては編集方針を立てるにあたり、今までの内容を踏襲しつつも工夫改善すべきことなどについて、総会幹事並びに本部役員合わせて98名に往復はがきでご意見を求めた。ご協力いただいた皆様にお礼申し上げたい。戴いた数々の貴重なご意見を受け、これからは「より親しみ易い会報」をめざし、会員が読みたいと楽しみにするような活き活きした会報にしようと、特集記事をつくら取り取材記事を増やしたりしていく

45年度 柏木 正明	46年度 三好 毅	47年度 青木 剛徳	48年度 大穴 孝	49年度 萩野愛文部	50年度 田村 博之	51年度 小島 克己	52年度 松島 康生	53年度 堀井 雅明	54年度 菊川 克己	55年度 和泉 昇	中山 勉	富 博明	栗田 明	森 英雄	井出 康弘	萩野 明海	野木村 仁	大川 秀嗣	岡村 勉	阿部 好市	岩沢 敏裕	森田 公道	岡村 勉	野本 長司	奥田 初男	岩沢 敏裕	大川 秀嗣
------------	-----------	------------	-----------	------------	------------	------------	------------	------------	------------	-----------	------	------	------	------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

事務局より

◎八十周年誌の 販売について



館林高校八十周年記念事業の一つとして「館林高校八十年誌」が刊行されました。つきましては一冊二千円でお分けいたします。購入を希望される方は事務局までお申し込み下さい。

ことになった。そして今回は特集記事として「OBたちが学校で講義」をとりあげ、さらに配列等に工夫を試みた。皆様のご批評ご意見をいただければ幸いである。なお次号から特集記事として「中・高校時代の思い出」「盛やかな同窓会総会・親睦会」「館高の変わり様」などを取り上げたいと思っております。

皆様からの要望や情報、お知恵をいただきたい。

編集委員
(前山・関沢・山田・鈴木・飯島)

発行 群馬県立館林高等学校同窓会
〒374-0041 群馬県館林市富士原町二二四一
TEL.0276(74)0110
http://www.edu-c.pref.gunma.jp/gakko/kou/satebu/sai/